

アンケート概要

内 容：ガイドライン発刊から6カ月後の制吐薬の使用状況について

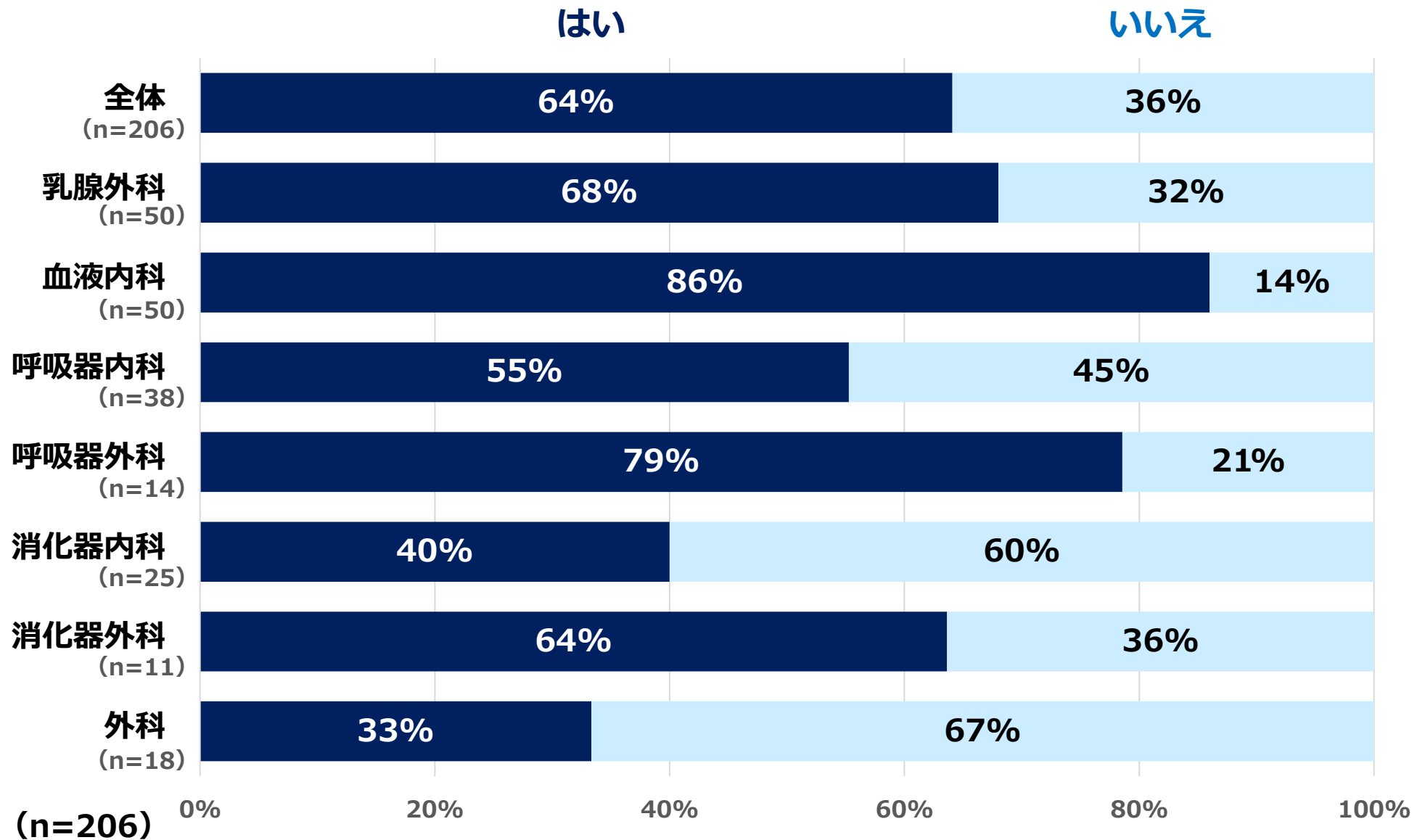
実施期間：2024年5月23～29日

調査方法：インターネット

対 象：20床以上の施設に所属するケアネット会員医師 206人

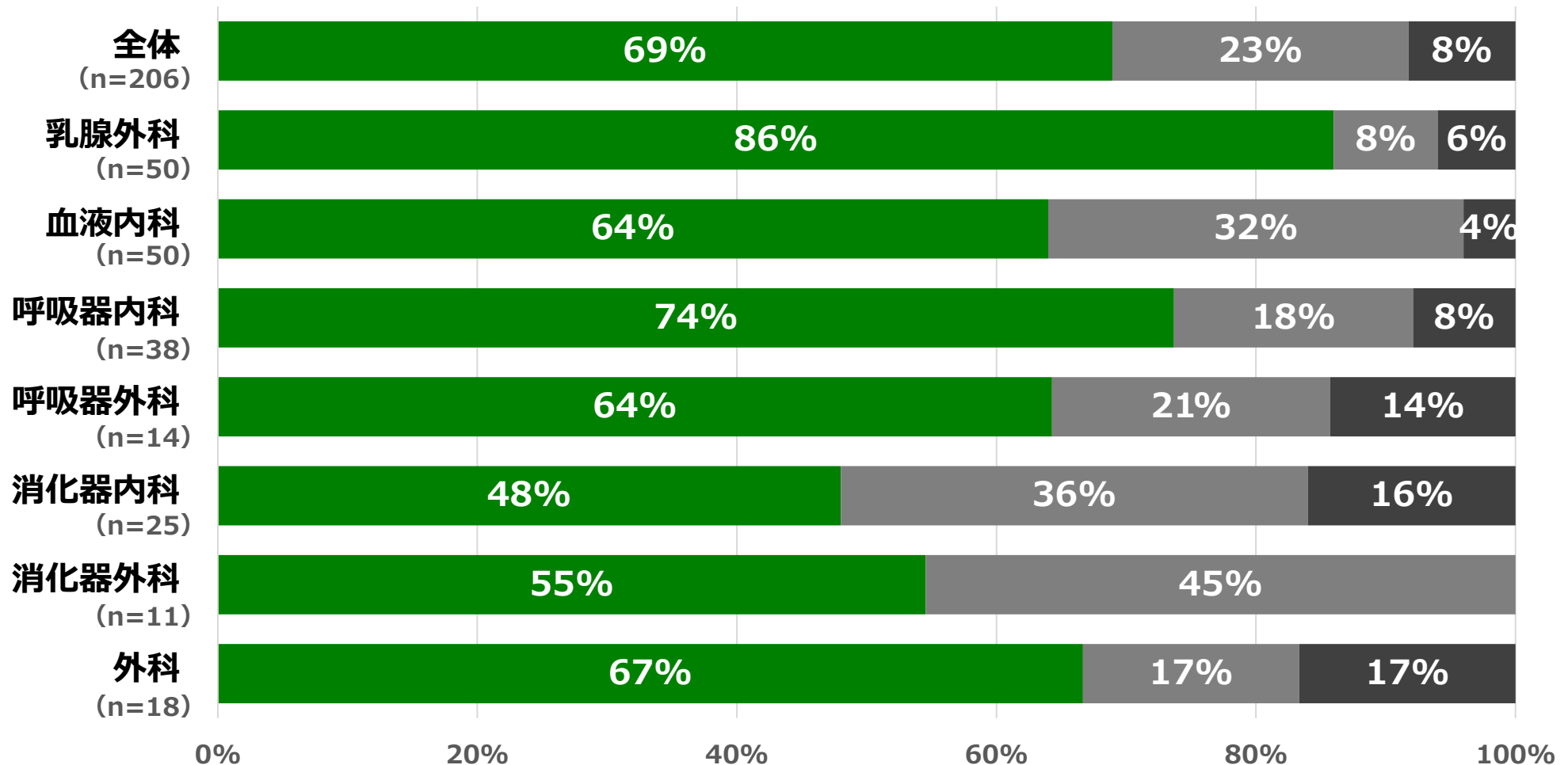
(乳腺外科：50人、血液内科：50人、呼吸器科：52人、消化器科：36人、外科：18人)

Q1：所属先は「がん診療連携拠点病院」ですか



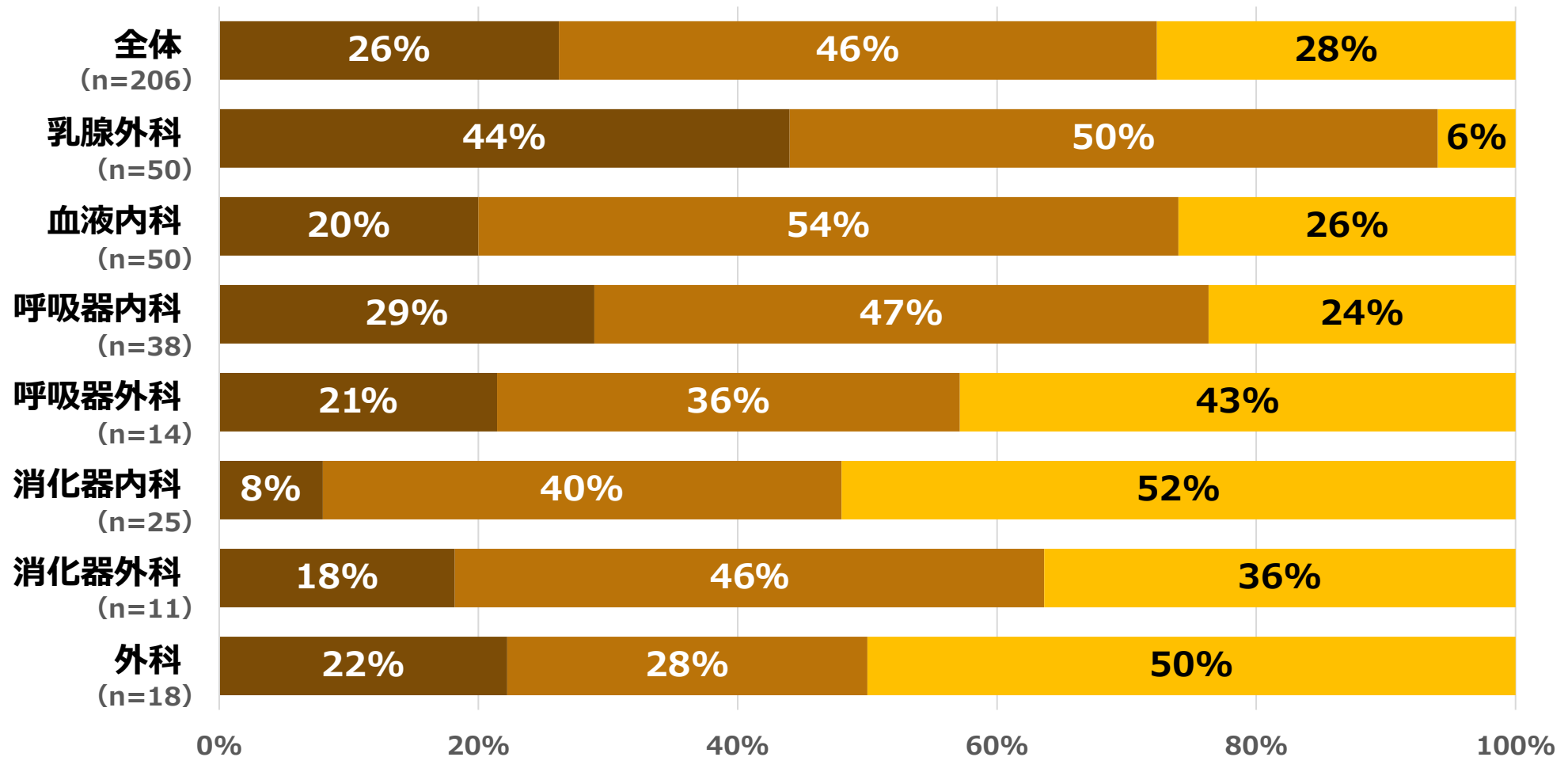
Q2：高度催吐性リスク抗がん薬の悪心・嘔吐予防として、オランザピンの追加・併用を知っていましたか

■ 知っていた ■ 知らなかった ■ ガイドラインが改訂されたこと自体を知らなかった



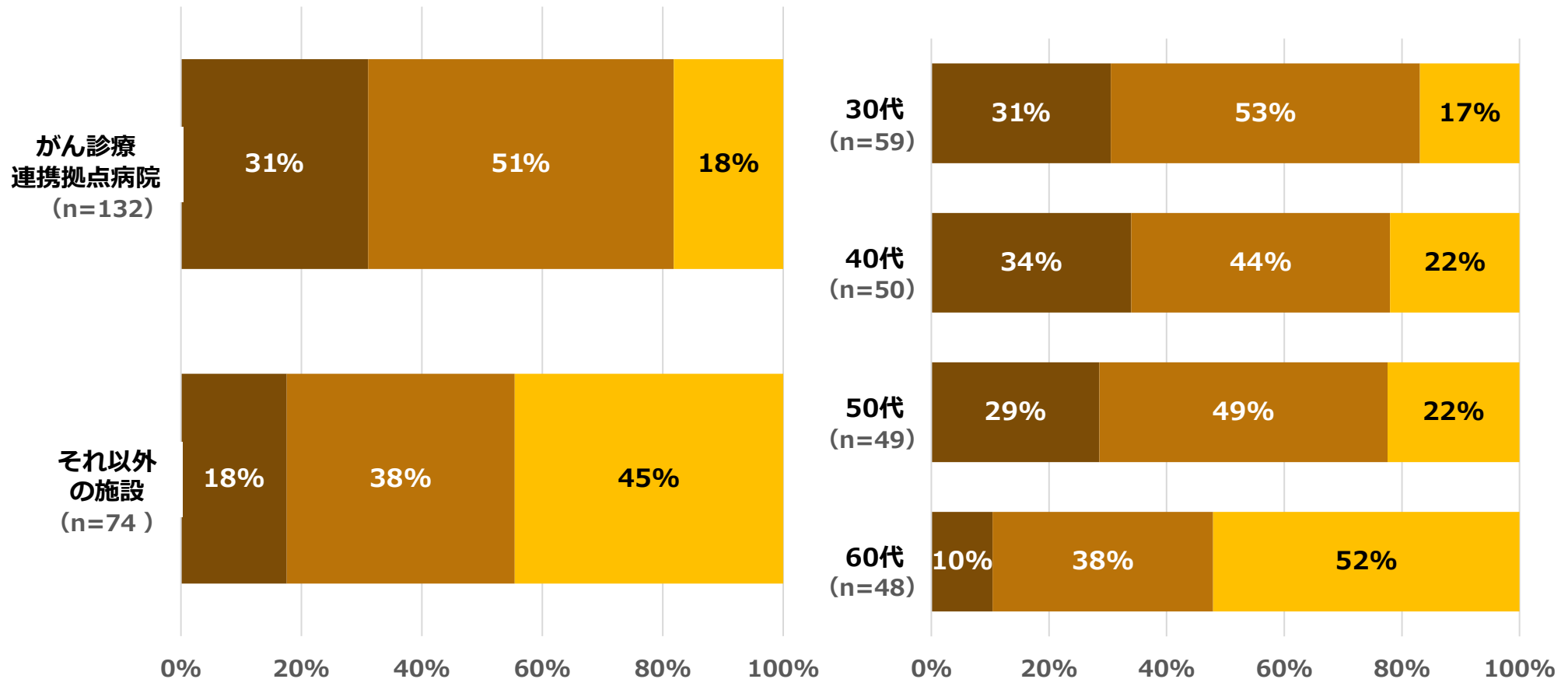
Q3：高度催吐性リスク抗がん薬をオーダーする際、オランザピンを処方していますか

■ 該当レジメンを使用する全員に処方している ■ 患者背景を考慮して処方している ■ 処方していない/処方を検討・迷っている

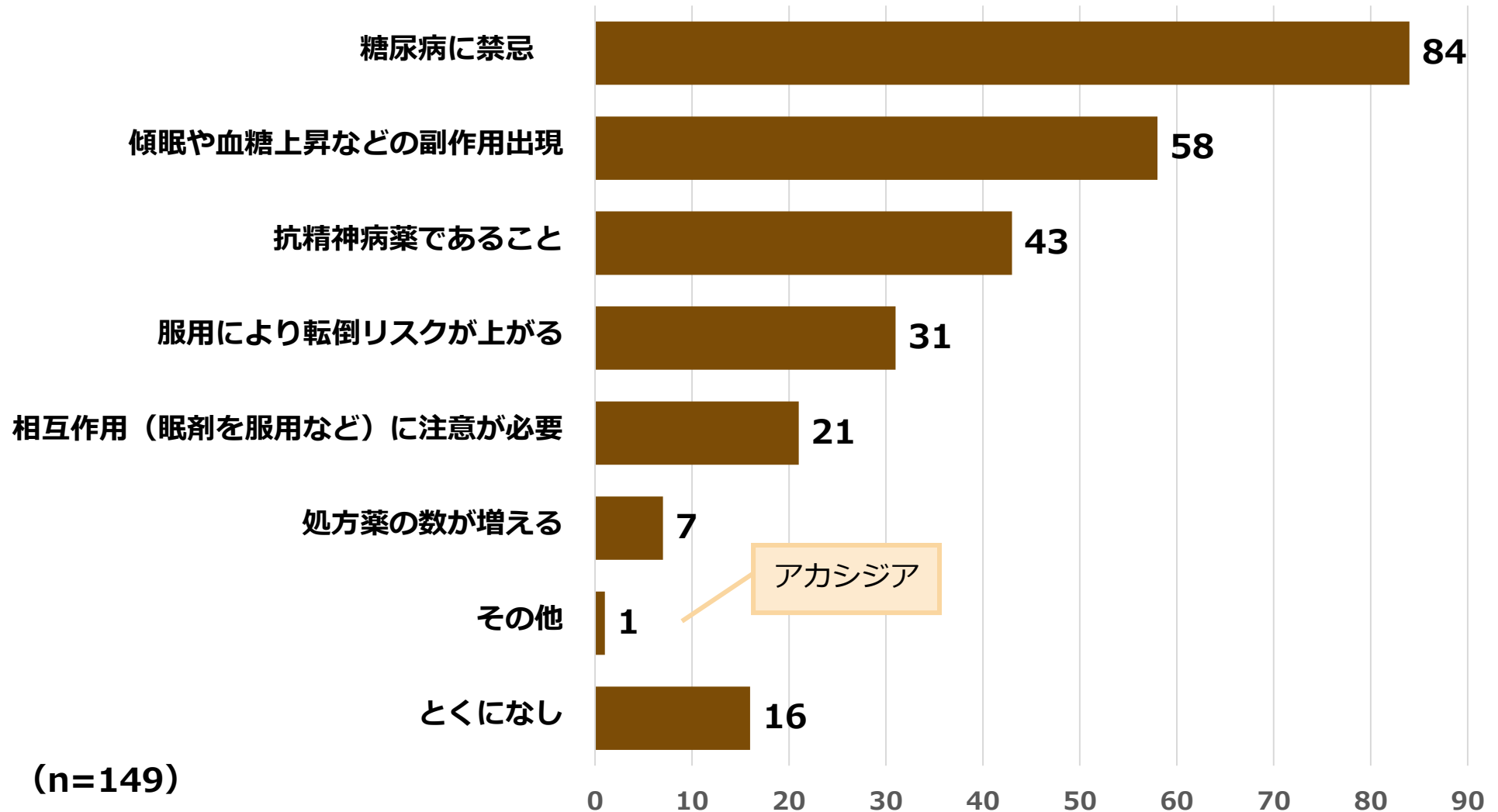


Q3：高度催吐性リスク抗がん薬をオーダーする際、オランザピンを処方しているかどうか

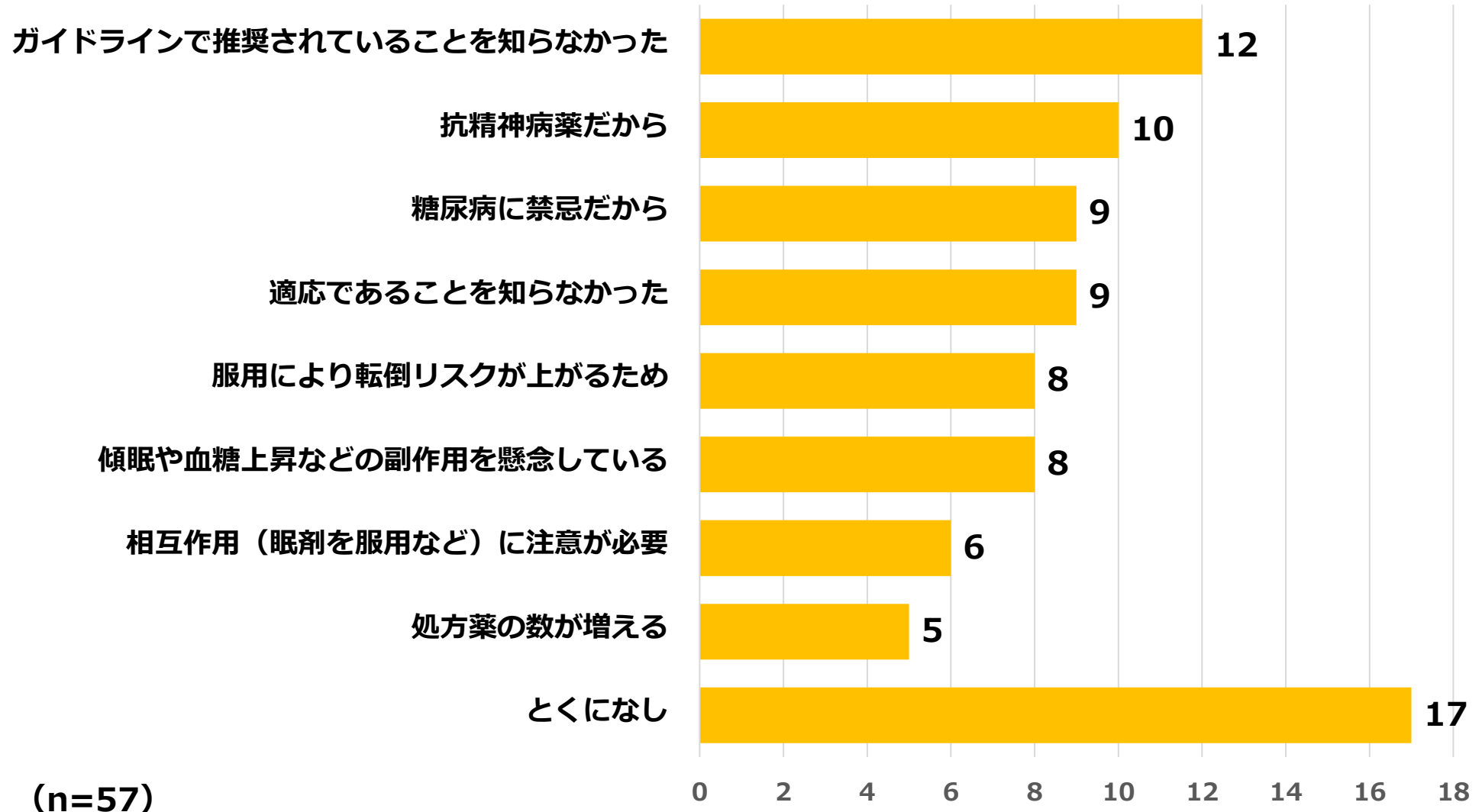
■ 該当レジメンを使用する全員に処方している
■ 患者背景を考慮して処方している
■ 処方していない/処方を検討・迷っている



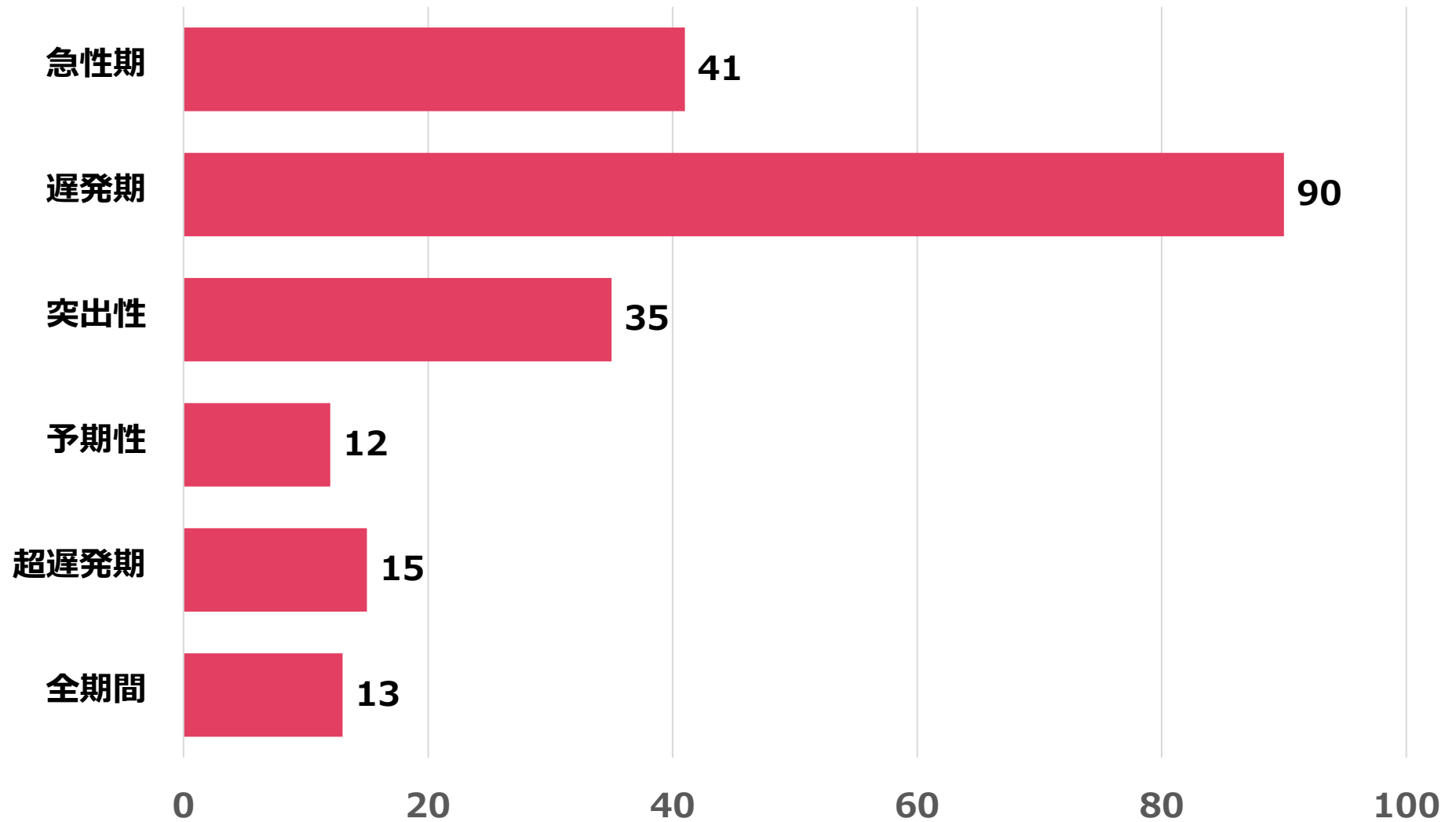
Q4：オランザピン「処方している」回答者が感じる不安 (複数回答)



Q5：オランザピン「処方していない/処方を検討・迷う」 回答者のその理由（複数回答）

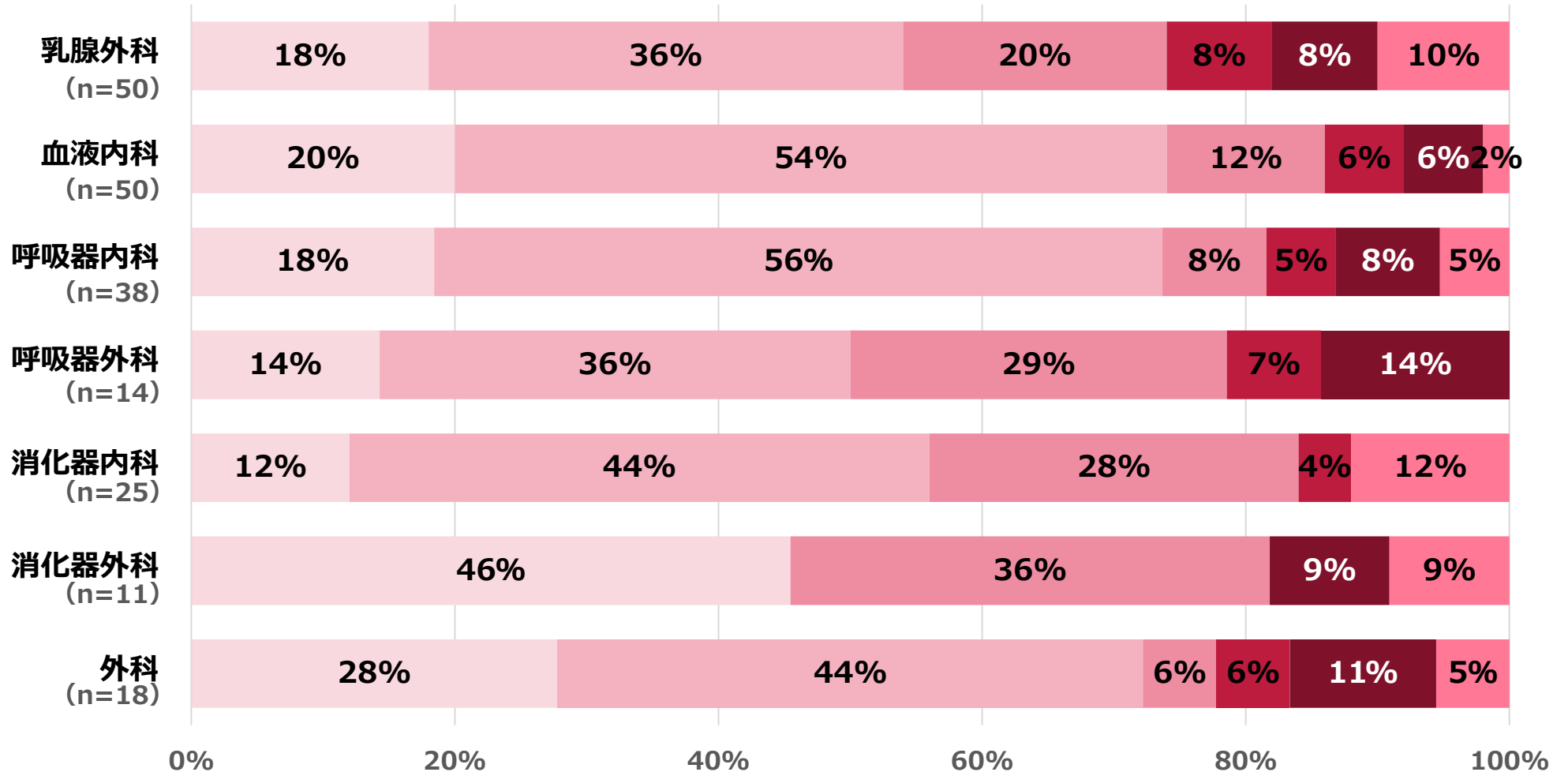


Q6：がん患者の悪心・嘔吐で、対応に最も苦慮する時期



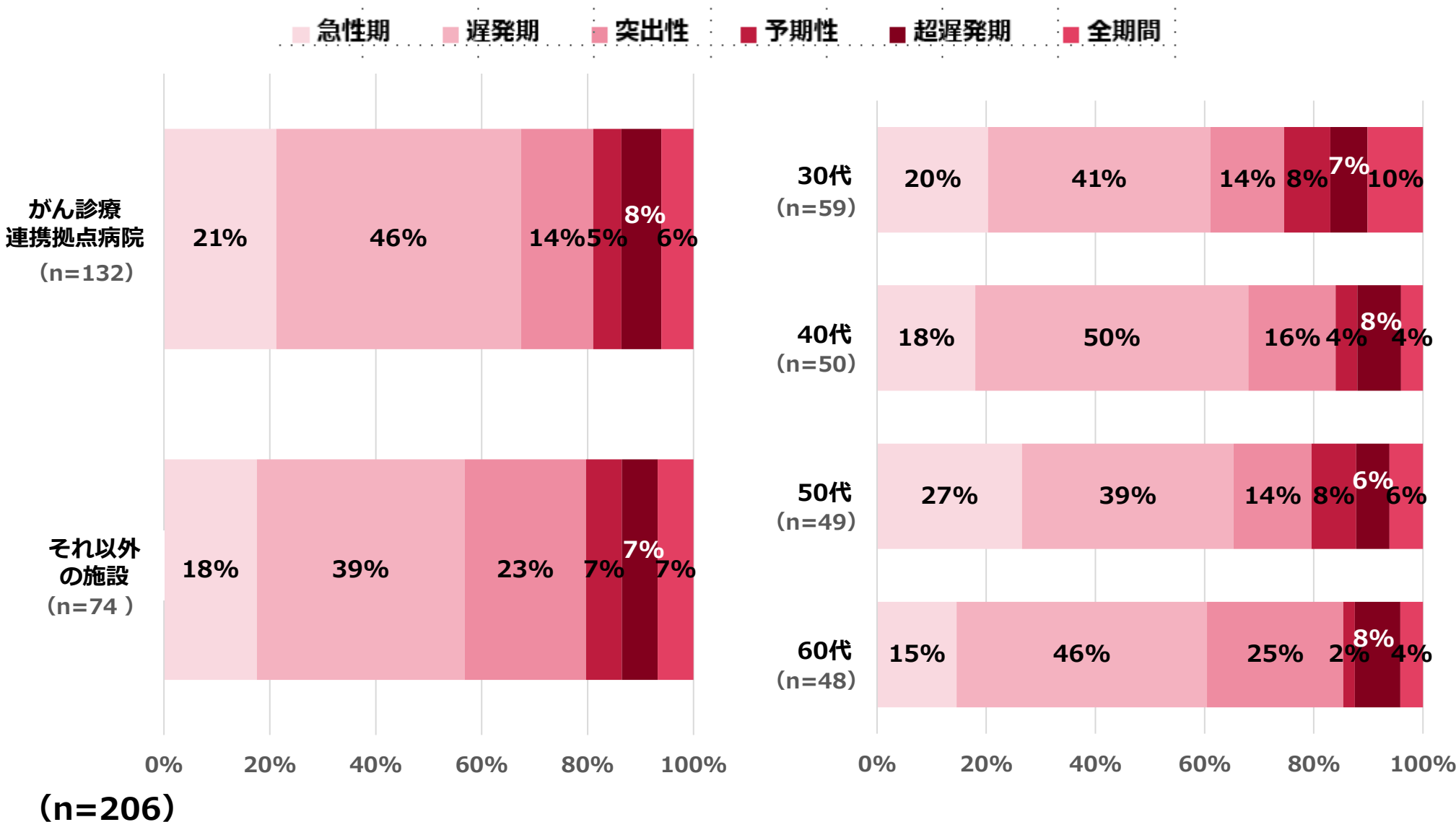
Q6：がん患者の悪心・嘔吐で、対応に最も苦慮する時期

急性期 遅発期 突出性 予期性 超遅発期 全期間



(n=206)

Q6：がん患者の悪心・嘔吐で、対応に最も苦慮する時期

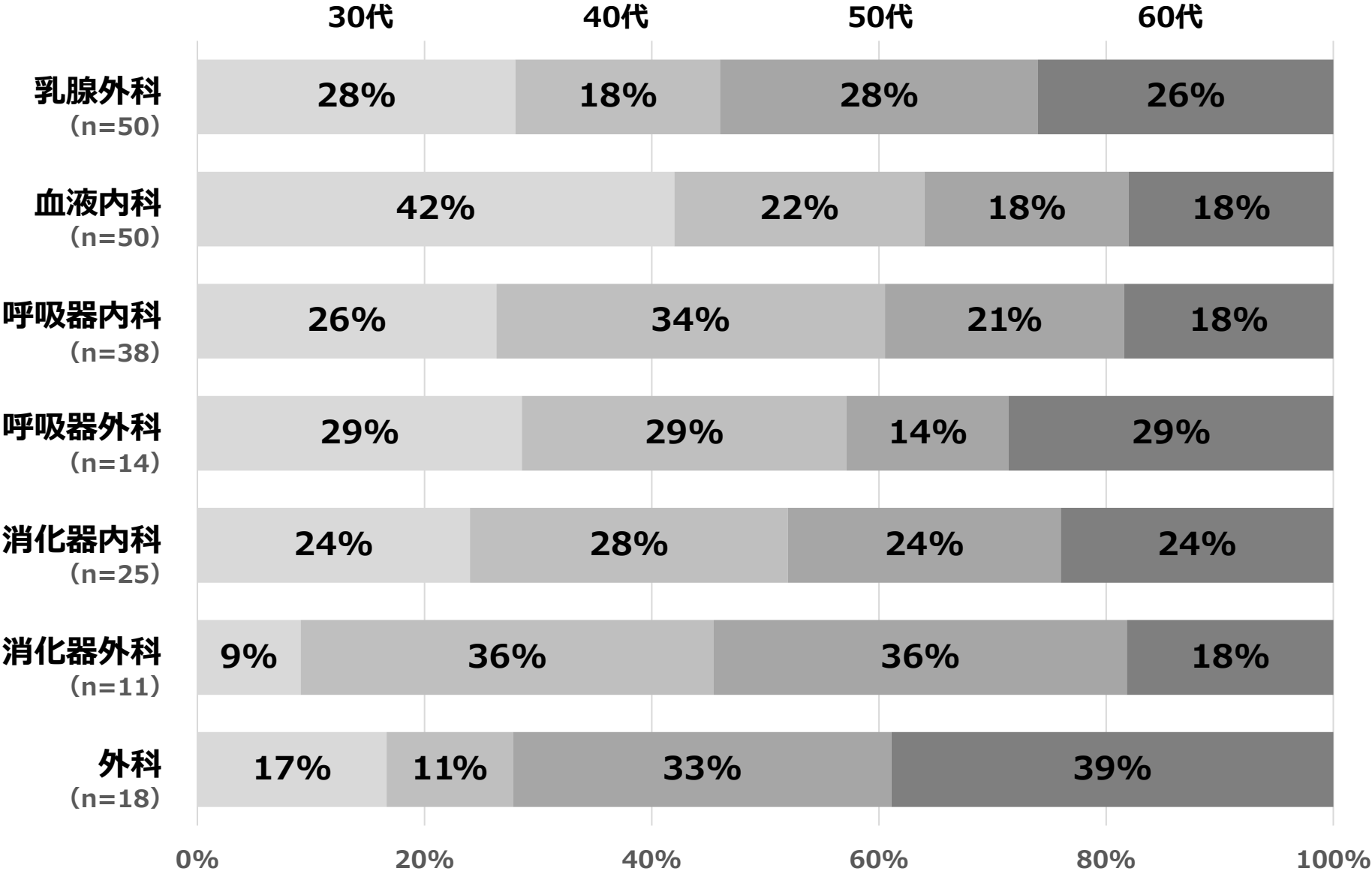


Q7：制吐薬または制吐薬以外の支持療法で困っていること /知りたいこと

- 他医の処方状況
- ステロイドの副作用、とくに血糖上昇について何がベストか
- 多剤併用について
- オランザピンのふらつきにより転倒を起こしてしまう人がいる点
(症状が出た場合は服用を中止するよう指導している)
- ガイドラインが実診療と合致しない
- 長期的展望
- なかなか薬で治らないこと
- ガイドライン情報・update情報
- 新規の医薬品の開発状況
- 包括的な講演を聞きたい
- アイスクリーム（？）

回答者属性

回答者属性（年代）



回答者属性（病床数別）

